

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会設立 20 年に寄せて

前兵庫県健康増進課長  
藤原 恵美子

設立 20 年おめでとうございます。

川崎さん、高田先生、岡田課長たちと共に、NPO 設立と県事業化に向けて頑張ったこと、夜間の事務局会議に参加してあれこれ話合ったこと等が思い出されます。現在、思春期ピアカウンセリング（以下思春期ピア）が県内に定着しているのは、貴会の活動の賜物です。

平成 18 年度に全国でも先駆的に思春期ピア事業を立ち上げ、3 年間で基盤整備をめざして、ピア養成講座及び学校でのピアカウンセリングの実施を研究会に委託しました。その後は研究会独自でピア養成を行い県はピアカウンセリングの実施を支援する役割を担ってきました。

当時、思春期保健において、自尊感情を高めること、自己決定ができること、ライフプランを考えることが重要だと思っていました。加えて、未来の親づくりとしての少子化対策、10 代の人工妊娠中絶や予期せぬ妊娠等への対策が必要でした。そこで、思春期ピアカウンセラーを養成、活用し、若者が「生（いのち）と性」についてともに考え、自らが望む時期に妊娠、出産できる等、人生を自己決定できることをめざした施策に取り組みました。

思春期ピアの周知については、県教育委員会から性教育の観点から連携の難しさを感じました。しかし、各健康福祉事務所の思春期ネットワーク会議による地域での連携や養護教育の任意団体や口コミによる拡がり、看護系大学の協力もあり、毎年新しいピアっ子が誕生し活動が継続していることはすばらしいことだと思います。

思春期ピアの推進は公民学が一体となったエネルギーに満ちた取り組みだと思います。私は、行政として県民とともに仕組みをつくりそれが展開、定着できるよう取り組む、そして活動が継続するよう支援するという貴重な体験をさせていただき感謝しています。

今後とも末永く思春期ピアの活動が続いていくことを祈念いたします。

「ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会 20年のあゆみ」にむけて

神戸市保健所保健課課長  
南谷 千絵

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会における活動 20周年、まことにおめでとうございます。平成 18年の貴会設立当初から、神戸市保健所では、活動支援金の交付という形で支援を続けてまいりました。

同年輩の仲間同士での取り組みの中で、ピアカウンセラーは多くの若者に寄り添い共感しながら活動し、相談者は年齢が近いピアカウンセラーに安心して相談できる、というしくみを教育現場で作られ、20年続いているということは大変素晴らしいことだと思います。

また、ピアカウンセラーの学生にとっては、大学を卒業しても、学生時代にピアカウンセラーとして活動した貴重な経験が、これからの人生の糧となるのではないのでしょうか。

なお、エイズや性感染症予防の啓発活動を大学生が若者に向けて発信されることは、大変意義があると思われれます。引き続き活動していただけますようお願いいたします。

貴会のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

簡単ではございますが、お祝いの言葉とさせていただきます。

ピアとして一緒に歩いていきましょう！

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会®  
代表 前田 ひとみ

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会の皆さま、20周年を迎えられ、誠におめでとうございます。私どもの日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会®（以下、JPCAEA）はひょうご思春期ピア研究会より1年前の2005年に高村寿子自治医科大学名誉教授を初代代表として発足し、共に思春期の保健対策の強化と健康教育の推進に向けたピアカウンセリング・ピアエデュケーションに取り組んできました。ひょうご思春期ピア研究会の皆様には、2010年の第3回思春期ピアカウンセリング全国大会を神戸市で主催いただきました。

東日本大震災、熊本地震、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミック等とさまざまな災害が発生し、私たちの日常は大きく変化してきました。そのような中、自分自身で人生のゴール（自己実現：豊かな人生）を見つけ、それを生き生きと実現しようとしていく能力を育むことが、ますます重要になってきています。ひょうご思春期ピア研究会では、COVID-19の中でも感染対策を十分に施した中で、たくさんのピアっ子を養成され、さらにはピアっ子が養成者に成長し、活発な活動を展開されていることに、日本ピア研として、心からお礼申し上げます。

多様な価値観があふれ混沌とした現代社会において、主体的に生きることの困難さを感じているのは若者だけではありません。これからも垣根を越えた、仲間としての対話が活発に繰り広げられ、ますますピアカウンセリング、ピアエデュケーション活動が発展することを期待しております。これまでの活動を基盤に、更なる一歩を共に踏み出しましょう！

ひょうごのピアの風は、いつものびやかでセンシティブ……。

自治医科大学 ピア部顧問  
高村 壽子 (アン)

(一般社団法人)ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会 20周年記念おめでとうございます。

1989年(平成元年)、自治医科大学看護短期大学に端を発した思春期ピア活動は、10代の人工妊娠中絶率と性感染症の急増現象に対する革新的な戦略として、2001年(平成13年)国民運動「健やか親子21」(第1次)の第1課題“思春期の保健対策の強化と健康教育の推進”に、若者が主役の若者同士の支え合いの場の提供と思春期ピアカウンセリング手法が取り上げられた。その実現化のために2002年(平成14年)から2004年(平成16年)の厚生労働科学研究として、“ピアカウンセリング・ピアエデュケーションのマニュアル作成及び効果的普及に関する研究”が実施され、現在の思春期ピアカウンセリング活動が基盤整備された。

これをきっかけに思春期ピアカウンセリング活動が全国に急速に広がり、思春期ピアカウンセラー<sup>®</sup>(以下、ピアっ子)たちの活躍が活発に全国展開されていった。その中でいち早く思春期ピアカウンセリング活動の基盤整備を行い、ピアっ子の人権と主体性を尊重し、多領域の支援者たちと手を携え時勢に沿った多様なセクシュアリティ尊厳のテーマで活動を進めていったのが、西日本を代表する貴会“ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会”である。

ピアっ子自身、思春期後期に属している。時に社会の大人たちの姿勢と行動に揺さぶられ、傷つく時がある。ピアっ子たちが何のてらいもなく持てる感性と力を最大に発揮できるのは、身近な支援者たちのピアっ子を信じ何にも揺るがない豊かな支援体制にある。そういう意味でいち早く一般社団法人ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会を結成したことに大きな敬意を払いたい。

今までも、そしてこれからも兵庫のピアっ子たちが、のびやかでセンシティブな兵庫らしいピアの風をいつまでも・・と願い、20周年記念に当たってのお祝いの言葉とさせていただきます。

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会  
20年のあゆみ発行にあたって

日本ピアカウンセリング・ピアエデュケーション研究会®理事  
(一社) ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会 監事  
安達 久美子

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会の20周年を心よりお祝い申し上げます。平成18年の設立時、この研究会がこれほどまでに地域に深く根付き、活動を継続される姿を想像された方は、どれほどいたでしょうか。皆様の日々の積み重ねこそが、この20年を支えてきたのだと感じております。

思春期ピアカウンセリング活動は、ピアカウンセラー、養成者、コーディネイター、サポーターの皆様、研究会を支える多くの方々の協働があってこそ成り立つものです。この活動が「思春期の若者の健康」という共通の目標を掲げ、一人ひとりの若者が自身の人生を生き生きと実現できるよう努めてきたことこそが、継続の原動力であり、この研究会の真髄だと思います。

思春期の若者を取り巻く環境は常に変化し続けています。特にCOVID-19の感染拡大以降、人々の繋がり方やコミュニケーションの在り方は大きく変わりました。SNSの普及やAI・DX技術の進展が社会全体に変革をもたらす中で、思春期の若者の不安や心配は時代を超えても消えることはありません。そんな若者たちに寄り添い、ピアとして支援するこの活動の重要性は、今後ますます増すことでしょう。

最後に、これまでの研究会の皆様のご多大なご努力と成果に敬意を表し、さらなるご発展をお祈り申し上げます。これを一つの節目とし、新たな挑戦を続けられ、20年後の未来へとつながる力強い一歩を踏み出されることを心より願っております。

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会 20周年に寄せて

一般社団法人ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会  
会長 高田 昌代

神戸市看護大学に着任したのが2001年。助産学専攻科の設置準備に追われていた2003年、DVの研修で一緒だった丹波市の保健師・岡田さんから「丹波市で思春期に関する講演があるので来てほしい」とお声をかけていただき、教員3人で出かけたのが、この研究会との出会いでした。道中で初めて食べた「エビマヨ」の味も、懐かしい思い出として今も忘れられません。

あれから20年。飽きっぽい私がここまで続けてこられたのには、大きく三つの理由があります。

一つ目は、仲間の存在です。川崎さん、井戸さん、佐藤さん、齋藤さん——いつも前向きに、そして自然に「続けていこう」と励まし支えてくれた仲間たちのおかげです。

二つ目は、ピアカウンセラー、いわゆる“ピアっ子”たちの成長を見守る喜びでした。毎年欠かすことなく誕生するピアっ子たちが、日々成長していく姿は目を見張るものがあります。経験が人を育てることを実感し、人の成長とは“教えること”ではなく、“学ぶ環境を整えること”なのだ学びました。思春期特有の揺れ動く心を理解し、他者を指示せず支持する力と自分を大切にできる力が育っていく姿に、いつも心を打たれました。

三つ目は、私自身が毎年「カウンセリング・マインド」を学び直すことができたことです。傾聴、共感、受容——その原点を、ピアっ子たちとともに確かめる時間は、私にとってかけがえのない学びの場でした。

この20年間で、何よりうれしいのは、ピアっ子や仲間とともに過ごした貴重な時間を持てたことです。45歳からの20年間——人生の約3分の1をこの活動と共に歩んできたことは、私の誇りであり、宝物です。

これからも、思春期の心に寄り添うこの温かな活動が、静かに、そして確実に次の世代へと受け継がれていくことを願っています。

## 「20年のあゆみ」によせて

一般社団法人ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会  
副会長 齋藤 啓子

思春期ピア・カウンセリング・ピア・エデュケーション活動（以下、ピア活動）には関心があり、関係する研修会に個人的な学習として参加していましたが、思春期ピア・カウンセラー<sup>®</sup>（以下、ピアっ子）との活動の経験はありませんでした。

2014年勤務していた大学の大学祭で、ピアっ子の展示・活動ブースに出会い、そこから、ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会の活動に参加させていただくようになりました。当時はまだ、養成者研修生でしたが、養成講座やピアっ子と一緒に実践活動を通して養成者としての学びや経験を重ねることができました。また、ピアっ子と一緒にピア活動する楽しさも経験しています。

この度、ひょうご思春期ピアカウンセラー研究会20年誌にかかわり、あらためてピア活動は、ほんとに多くの方の協力や支援によって支えられている活動であることを実感しています。ピア活動は、ピアっ子が学校などの活動の場へ行ってピア・エデュケーションやピア・カウンセリングを行うことのように見えますが、その土台には、主な活動の場である学校の協力や理解、地域での活動として保健所や市・町の方々の協力と理解が必要です。また、ピアっ子に伴奏する私たち養成者やコーディネーターの協力も必要です。なによりも、この活動の主役であるピアっ子が本業としての学習と並行しながら、ボランティア活動（又はサークル活動）として参加してくれることです。これらの人たちが、20年という時間を支えてくださり、今があると感謝しています。そして、これからも思春期の人たちに寄り添える活動として、続けられるよう・続けていけるように私自身の努力と支援して下さる皆さまとのネットワークを大切に感謝とお願いの気持ちを載せて20年誌に寄せる言葉とさせていただきます。

## 「20年のあゆみ」に寄せて

一般社団法人ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会

理事 川崎 由岐子

2003年春、久しぶりに柏原保健所に戻ってきて母子保健の担当になりました。夏頃、所内で地域戦略事業を活用して新規事業ができないかという話がありました。研修で出会ったピアカウンセリング事業を何とか事業化できないか？となり、大阪の助産師会の研修講師でやって来られる高村先生に助力を願いに行きました。奈良県の桜井保健所の保健師もうちと同じような依頼で来ておられ、全国的に思春期ピアカウンセリング事業は注目されていました。高村先生からは「あなたは予算だけ確保しておけばよい」と言われ、事業化は動き出しました。

あれから22年。事業は続き、コロナ禍の時期も含めてピアカウンセラー養成も学校での事業も継続して来られました。人とのコミュニケーションが基本の事業で、マスクが必須のコロナ禍は大変つらい期間でした。

いろんなことがあったのに、どうして続けて来られたのか、やってきた当事者なのに不思議に思うこともあります。考えてみたらこの運営側のメッセージを書いてくださる皆さんとの出会いこそがその理由です。

養成講座に参加してくれたピアカウンセラーのうち、必ず何人かは核となって思春期ピアカウンセリング事業に取り組んでくれるピアっ子が生まれます。実施する事業のプログラム作成の他、学校関係者、一緒にやるピアっ子との調整など事業実施には多くの作業が必要です。それらを通して成長するピアっ子の姿は「人は機会さえあれば自分の問題を解決する能力がある」というこの事業の基本前提そのものです。

この度の20年のあゆみの発刊で多くの方々にこれまでご支援いただいて来たことを再確認しました。本誌がそのお礼の場になれば幸いです。

「継続は力なり」、どこまでやれるかわかりませんが、SNSなど非対面のツールが増える今の時代だからこそ私たちのような活動が求められるのかもと思っています。今後のご支援をお願いして、発刊のメッセージといたします。

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会  
設立 20 周年おめでとうございます

一般社団法人ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会  
理事 佐藤 薫

このたび、思春期ピアカウンセリング研究会が 20 周年を迎えられましたこと、心よりお祝い申し上げます。

サポーターとして携わらせていただく中で（養成講座等々、なかなか参加できる時間が少なく、参加率の少ないかつあんでございまして申し訳ございません）最初はドキドキしながら話していたピアっ子ちゃんたちが、逞しく頼りがいのある姿に成長していく様子に毎回感動しております。

このような素敵な研究会に携わらせていただけていることに、そして、事務局スタッフの皆さまの大きな愛に感謝の気持ちでいっぱいです。

これからも感動あふれるこの研究会が、スタッフの皆さまもいつまでもお元気で、次の 20 年も続くことを願っております。

これからもよろしくお願い申し上げます。

20 周年、本当におめでとうございます！

## ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会 20 年を迎えて

一般社団法人ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会  
理事 井戸 修一

2003 年 4 月、私は神戸市西区役所で子育て支援に携わることになりました。児童虐待について、保健分野でも組織として担うようになり、予防の視点が加わり、親支援が主要施策になる時期でした。

その年、神戸市看護大学の高田昌代教授との出会いがあり、大学との協働事業を始めることになりました。

親支援について、教授から「親は初めから親ではなく、こども時代や思春期を経て親になる。自分らしく子育てする力を育むには、よい思春期、よいこども時代を過ごすことが重要」と教わり、その言葉は、胸にストンと落ち、心に深く刻まれました。

そこで、神戸市看護大学と協働で、小学校高学年を対象に、赤ちゃんとふれあう命の感動体験を始めました。やがて、高田教授に川崎さんたちを紹介され、思春期の若者を対象とする思春期ピアカウンセリング事業に関わることになります。出会いは出会いを呼ぶものだとつくづく思います。

思春期ピアカウンセリング活動で出会うピアっ子たちは生き生きとしています。青春の 4 年間を見守ることができるのは、何よりの喜びです。日々、跳ねるように、なんとぐんぐんと力強く成長していくのかと、まぶしく、頼もしい。

20 年の間に、数多くのピアっ子たちがキラキラしながら巣立っていきました。また、中学校や高校などの活動でピアっ子に出会い、ピアの心に触れた若者も数えきれないです。今では親になった人もいます。この経験が心の支えとなっていればうれしい。

この先も、思春期ピアカウンセリング活動が多くの若者とともにあることを心から願っています。

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会 20年に寄せて

一般社団法人ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会  
理事 井上 理絵

ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会が20年を迎えた節目の年に、皆さんと一緒に活動できたことを本当に光栄に感じています。

私が思春期ピアカウンセリングという言葉に出会ったのは、まだ平成の頃でした。JFPA（日本家族計画協会）で実施していた高村先生のセミナーを見つけ、受講したのが最初です。「大学生が行う活動だなんて、斬新で興味深い！」と思いながらも活動に関わる機会が無く、数十年が過ぎていました。

そして、令和元年。神戸市看護大学に着任したことをきっかけに、ひょうご思春期ピアカウンセリング研究会の活動に参加することができました。これまでの20年のあゆみからすれば、最近活動に参加した「新参者」の私ですが、毎回すごい！と思っているのは、ピアっ子たちの行動力です。自分が何をすれば良いのか、どうすれば思春期の対象者に理解してもらえるのか・・・と真剣に、そして時には大人ピアに厳しく発言する学生たち。彼らの力があるから高校生、中学生に寄り添うことができ、思春期の子どもたちに変化を起こしていける。大人ピアの一人として、そんな輝く時間を一緒に過ごせて嬉しいかぎりです。

大学生の時に仲間とともに活動した経験は、この先ずっと自分たちを支える自信となって、次のピアっ子の活動に受け継がれていきます。神戸の地だけでなく、たくさんの地域で活躍するピアっ子に心からエールを、そして大人ピアの皆さんに感謝をし、20年のお祝いの言葉とさせていただきます。